

素

五年

画数 10
筆順
一 素 素 素

フソソ・ス

成り立ち



「生」という字のもとと「糸」という字を組み合わせで作った字である。「生糸」という意味の字です。

繭から取ったばかりで、何の手も加えられていない糸のことを「生糸」と言います。これをあくで煮て、やわらかくつやのある絹糸に仕上げ、染めて織って布にし、着物を作ります。「生糸」は一番の「もと」なので、素は「もと」の意味に使われます。【例】元素、素材。

何の手も加えられていない糸なので、「ありのまま」「飾らない」という意味に使われます。【例】素直、素朴、質素。また、「特別の状態でない」ことから、「ふだん」という意味に使われます。【例】平素、素行。

使い方

▽酸素や水素などのことを元素と言いますが、元も素も「もと」という意味の字ですから、元素とは「もとのもと」で、「大もと」という意味のことばです。

▽素直な人は、何事にも上達がいちじるしいので、教える人にとってはとても楽です。

熟語例

▽元素（あらゆる物質を成り立たせている元の元。科学的、物理的に物質を分けていって、これ以上分けられないという極限のもの。酸素や水素など）

▽素材（いろいろな品物の元になる材料のこと）

▽素直（直は「まっすぐで、くせがない」こと。性質がそのまま、まっすぐなこと）

▽素朴（朴は、切りたおしただけの、まだ手を加えていない木のこと。ありのまま飾り気がないこと）

▽質素（質は、中身のことで、飾り気がないことです。中身をたいせつにして、飾らないことを言います）

▽平素（平も素も「特別の状態でない」意味の字。ふだん）

▽素行（平素の行い）

総

五年

画数 14
筆順
一 総 総 総

フソソ

成り立ち



「公明正大」という意味の「公」と、「心」と「糸」とを組み合わせて作った字です。

「たくさんの糸をもつれないようにうまく一つにまとめる」とことを表した字で、「組織をごたつかせないように一つにまとめる」という意味に使う字です。それは、公明正大な心で、たくさんの糸をあつかうような気持ちでないと、できることはありません。【例】総理、総裁、総長、総括、総合。また、「すべて」「全部」という意味にも使います。【例】総意、総計、総数、総体。

（旧字体は「總」。心の「窓（窓の本字）」が開かれていて聴い意味の恩と糸との会意・形声字。巧みに糸をあやつる意味の字である。）

使い方

▽総理大臣は、「すべて（総）おさめる（理）大臣」という意味のことばで、文部大臣や大蔵大臣などの大臣たちを「すべておさめる大臣」です。

▽わたしの父は、会社の総務課長をしています。

▽ぼくたちの学校に、総合体育館が造られました。

▽総理（理は処理すること。おさめること。全体をまとめておさめること）

▽総裁（裁は決裁すること。組織の最高責任者の名称に使われます。【例】政党的総裁）

▽総長（総裁と同じように、組織の最高責任者の名称に使われることばです。よく、総合大学の学長のことに使います。【例】東京大学の総長）

▽総務（内務、外務などいろいろな事務をまとめる仕事）

▽総合（いろいろなものを一つにまとめ合わせること。いろいろな種類の運動ができる施設が一つにまとめられた体育館が総合体育館です）

▽総意（全体の人の意見）

▽総数（全体の数）

使い方

▽総理大臣は、「すべて（総）おさめる（理）大臣」という意味のことばで、文部大臣や大蔵大臣などの大臣たちを「すべておさめる大臣」です。

▽わたしの父は、会社の総務課長をしています。

▽ぼくたちの学校に、総合体育館が造られました。

▽総理（理は処理すること。おさめること。全体をまとめておさめること）

▽総裁（裁は決裁すること。組織の最高責任者の名称に使われます。【例】政党的総裁）

▽総長（総裁と同じように、組織の最高責任者の名称に使われることばです。よく、総合大学の学長のことに使います。【例】東京大学の総長）

▽総務（内務、外務などいろいろな事務をまとめる仕事）

▽総合（いろいろなものを一つにまとめ合わせること。いろいろな種類の運動ができる施設が一つにまとめられた体育館が総合体育館です）

▽総意（全体の人の意見）

▽総数（全体の数）